

イワヤの犬・猫の脚骨折を修復する（SUS+補強法）

2024.11.03

トミー・マック

1. 要点

イワヤの小型の犬や猫などのぬいぐるみの脚は、落としたり踏つけて骨折することが多いです。

そこでオーソドックスで強固に固定する方法を説明します。

名付けて「SUS+補強法」とします。

2. 方法

(1) 用意するもの

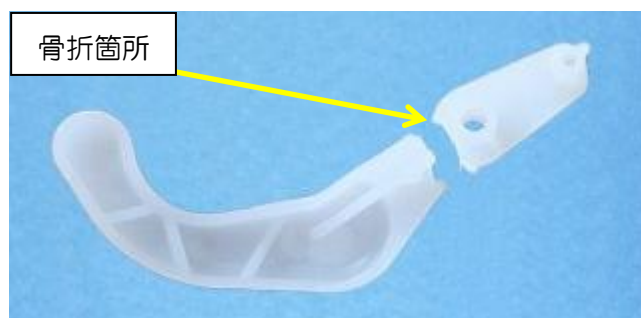
- ステンレス線 $\phi 0.28 \sim 0.3\text{mm}$ 、 $\phi 0.9\text{mm}$ 、 $\phi 0.85\text{mm}$ （ゼムクリップー事務用標準品）
- ポリエステル縫製糸
- 難接着材料瞬間接着剤 PPX（または同等品）
- 一般用瞬間接着剤

(2) 修理（例：イワヤの「赤ちゃんシリーズの猫」の右後脚）

脚の骨折は、場所や折れ方が色々ありますので、ステンレス線の添え線の形状や固定線の箇所や箇所数は臨機応変に対応します・

...(a) 仮留め

折れた脚をできれば PPX 又は一般用瞬間接着剤で仮留めします。

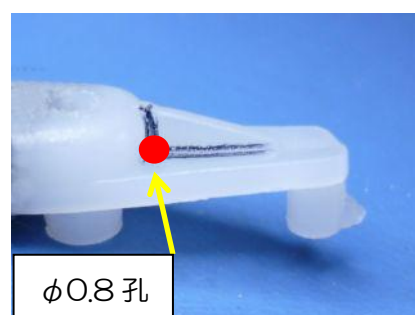
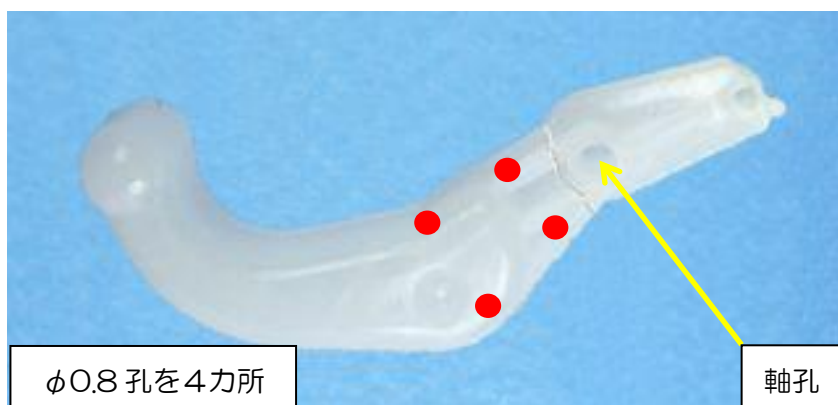


...(b) ステンレス線用の孔明け

ステンレス線を通すため、軸孔上の三角リブの隅に $\phi 0.9\text{mm}$ 用として $\phi 0.9\text{mm}$ キリ穴を、 $\phi 0.85\text{mm}$ 用として $\phi 0.8\text{mm}$ キリ穴を、 $\phi 0.28 \sim 0.3\text{mm}$ の 2 本用も $\phi 0.8\text{mm}$ キリ穴を開けます。

$\phi 0.28 \sim 0.3\text{mm}$ の 2 本用

$\phi 0.85\text{mm}$ 用



イワヤの犬・猫の脚骨折を修復する（SUS+補強法）

（c）添え線（ $\phi 0.85\text{mm}$ ステンレス線の場合）の通し

ゼムクリップ（ $\phi 0.85\text{mm}$ ）を添え線として長さを決めて切断し、軸穴上の三角リブの隅の 0.8mm の孔に通します。



（d）添え線（ $\phi 0.85\text{mm}$ ステンレス線）の縛り

$\phi 0.28\sim 0.3\text{mm}$ を折り返し重ねて2本とし、 $\phi 0.8\text{mm}$ 孔に通し1重で縛ります。
ステンレス線は長めの方が、孔を通す時や縛る時に作業がし易いです。



（e）ステンレス線の長さ揃えと倒し

振ったステンレス線を長さ約 5mm に切断し、振った部分を脚の裏側に倒します。長い方が倒しやすいです。



イワヤの犬・猫の脚骨折を修復する（SUS＋補強法）

（f）ステンレス線の接着

ここで扱ったステンレス線と添え線を一般用瞬間接着剤（金属同士接着可能）で留めます。難接着材料瞬間接着剤 PPX を使えば、ステンレス線と PP 樹脂の脚とも接着可能ですが、高価ですので今回は使いません。

（g）ステンレス線の保護と固定

ステンレス線を覆うようにポリエステル縫製糸を巻き付けます。特にφ0.85mmの添え線の端面や、φ0.28～0.3mmの振り線を覆うように巻き付けます。

（h）縫製糸とステンレス線の接着

縫製糸とステンレス線を一般用瞬間接着剤（縫製糸も接着可能）で留めます。縫製糸に一般用瞬間接着剤を塗ると縫製糸が熱くなることがありますので、ヤケドに注意します。

接着すると、縫製糸が固まりギプスの様な役割で硬く固定できます。

（h）縫製糸とステンレス線の補強

縫製糸とステンレス線を接着後、更に重曹を表面に振りかけ、その上に一般用瞬間接着剤を塗布するとより一層ギプスが固くなり補強できます。万遍なく振りかけ接着することがポイントです。

終わり